

地域循環型市民社会の実現を目指して

～リユース&リサイクルシステムづくり事業のご紹介～

リユース&リサイクルステーション(38ヶ所)



エコロジーセンターRe☆創庫・Re☆ショップ(4ヶ所)



NPO法人中部リサイクル運動市民の会
代表理事 永田秀和

本日はご紹介する内容

①リユース&リサイクルステーションのご紹介

- ・既存の「リサイクル拠点」に「リユース拠点」を追加
- ・環境教育の場

②エコロジーセンターRe☆創庫・Re☆ショップ（チャリティショップ）のご紹介

- ・多様なライフスタイルに合わせた、常設の「リサイクル&リユース拠点」
- ・寄付で受け取ったリユース品を販売し、収益を非営利活動に還元する「チャリティーショップ」を併設

③フードバンクとの連携活動のご紹介

- ・活動分野の異なるNPOが連携することによる、活動拡大の可能性を探る

④チャリティショップのご紹介

- ・リユースの促進と非営利組織のファンドレイジングの仕組み

①リユース & リサイクルステーションのご紹介

リユースの窓口

リサイクルの窓口

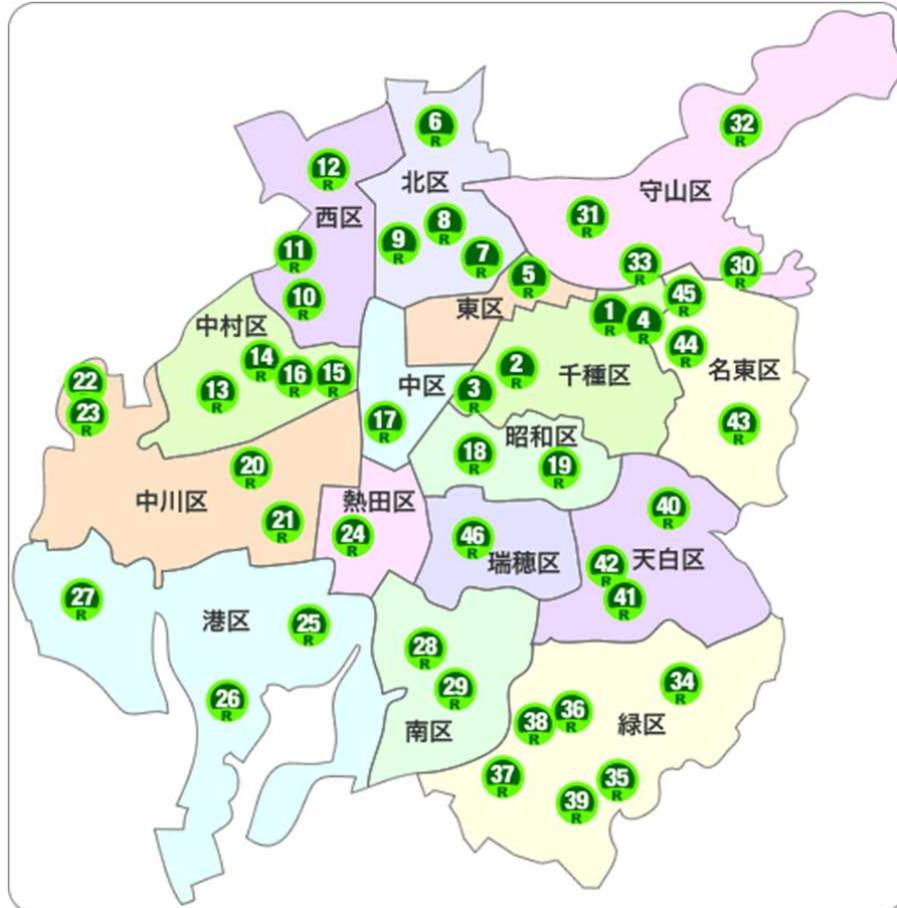
「リサイクルですか？
リユースですか？」

【五位一体の協働事業】

- ①市民：
現場の運営ボランティア
- ②企業：
地元スーパーが駐車場無償提供
- ③マスメディア：
中日新聞社及び販売店による
開催告知チラシ折込25万部
- ④行政：
名古屋市による事業協力金・
広報
- ⑤NPO：
弊会が事務局を担う

既存のリサイクル拠点にリユース窓口を併設することで、リユースへの誘導がしやすい。

リユース & リサイクルステーション分布図



- 名古屋市16区すべてに分布
- 会場提供企業



- 各会場毎月決まった曜日に開催
- ひと月あたり 延べ100開催程度

小学生を対象とした環境教育プログラムの実施

- ・ボランティアメンバーが中心となって進める環境教育チームがプログラム内容を企画し、実施。
- ・ボランティアのやりがいにつながる。
- ・参加した子どもたちは、3Rについての学びと、ボランティアの楽しさを体感する。



②エコロジーセンターRe☆創庫・Re☆ショップ(チャリティーショップ)のご紹介



店舗



常設資源回収



リユース品の仕分け

Re☆創庫・Re☆ショップの利益の活用先

- ・リユースの拠点運営費
- ・小学校などでの環境教育プログラム
- ・チャリティーボックスの設置(スーパー店頭)
- ・障がい者の就労支援

3Rをテーマとした環境教育プログラム



2016年度リユース & リサイクル事業実績

- ①リサイクル資源回収量: 2,332t
- ②リユース品の寄付者数: 延べ21,400人
- ③リユース品の購入者数: 延べ50,317人
- ④リユース点数(購入された点数): 194,984点
- ⑤活動に参加いただいた市民ボランティア人数: 延べ6,600人
- ⑥当該事業に参加いただいた障がい者人数: 延べ約200人
- ⑦当該事業で得られた活動資金(現金寄付・リユース品売り上げ・資源売却額): 58,539,798円

③フードバンクとの連携活動のご紹介

～エコロジーセンターRe☆創庫でのフードドライブ活動～

- ・我々の仕組みの中で、リユース品を寄付いただくついでに、食品の寄付も呼びかけが可能。
- ・フードバンク活動は、個人との接点が少なく、個人会員の拡大が大きな課題。
- ・食品ロス削減＝ごみの減量に繋がられ、我々のミッションとマッチ。
- ・物流拠点の共有など、互いがメリットを得られる連携の可能性。

第2回なごやフードドライブ

ご家庭に眠っている食品をご寄付ください!

日本では年間約1,900万トンの食品が廃棄され、その中にはまだ食べられるものが632万トンもあると言われています。ご家庭で余っている食品があれば、ぜひご寄付ください。いただいた食品は、フードバンク団体「認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋」を通じて、生活に困窮している方々にお配りします。

※フードドライブとは、家庭で余っている食べ物を持ち寄り、フードバンク団体や福祉団体へ寄付する活動です。
※寄付の際に連絡先をお知らせください。フードバンク団体からお礼状と活動報告をお送りします。(個人情報フードバンク団体に提供します)

- 日程:2016年9月1日(木)～9月30日(金) ※受付場所の定休日を除く ●時間:10時～17時
- 受付場所: エコロジーセンターRe☆創庫あつた エコロジーセンターRe☆創庫春日井
エコロジーセンターRe☆創庫さくら Re☆ショップよしの
NPO法人中部リサイクル運動市民の会 事務局

※リユース&リサイクルステーションでは受付できません。
※宅配便でお送りいただく場合は、フードバンク団体「認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋」
(〒462-0845 名古屋市中区新栄 3-4-2 小曾ビル 1F TEL: 052-913-6280) まで直接お送りください。(送料は自己負担をお願いします)



ご寄付いただきたい食品

- お米 (特に不足しています)
 - パスタ・乾麺
 - 乾物 (のり・豆など)
 - 調味料・食用油
 - インスタント食品・レトルト食品
 - ギフトパック (お歳暮・お中元など)
- ※飲み物もOK。ただしアルコール類はNG

受け付けられるもの

- ①賞味期限が明記され、かつ2ヵ月以上あるもの
- ②常温で保存が可能なもの
- ③未開封であるもの
- ④破損で中身が出ていないもの
- ⑤お米は常温の範囲内で古くないもの (玄米もOK)



NPOの連携による活動拡大の可能性

～環境活動×フードバンク活動×被災地支援活動～

(認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋と認定NPO法人レスキューストックヤードとの連携)

■活動における共通点

- ・もの(不用品・食品・支援物資)を寄付いただき、仕分けし、必要としているひとに届ける。
- ・活動が広がることでものの扱い量が増え、広い物流拠点を必要としている。**(NPO共同倉庫)**

■平時の活動を有事に生かせる可能性

- ・3つのNPOが共同で物流センターを持つことで、家賃や管理費などの経費負担を軽減できる。
- ・災害時にそれぞれが所有する「もの」を効率的に被災地へ届けることができる。

④チャリティーショップ（CS）のご紹介

一般市民などから無償で寄付された品物



ボランティアなどの協力で仕分け・販売



一般市民が買い物（リユース）



利益を社会的課題の解決に充てる

日本チャリティショップネットワークの立ち上げ（2015年12/14）

- 広く市民等から不用品の寄付を募り、それらを販売することで得られる利益を非営利活動に充てる「チャリティーショップ」（以下、CS）は、現在、日本国内で10団体程度が運営し、100軒程度存在する。
- 「不用品のリユース機能」と「非営利団体のファンドレイジング機能」を併せ持つCSは、徐々に注目を浴びつつある。
- しかし、日本国内でのCSの社会的認知度は低く、CS運営団体は財政や人材育成、他のCS運営団体との情報共有等の課題を抱えている。
- そういった課題を整理した上で、CSのネットワーク化を通じてそれらの課題を解決することにより、日本国内におけるCSの普及・啓発と、それにより期待されるリユースの機会拡大を図りたい。

英国のCSの現状(先進事例)

- ・CSの店舗数 10,000店舗以上
- ・収益 年間2億9千万ポンド(約551億円)※1ポンド190円換算
- ・支援対象 高齢者・若者・貧困者・病人・海外支援等

全英で10,000店を超えるCS



洗練されたショップデザイン



街中にある寄付品回収ボックス

大きな団体は約1,000個設置



路上に置かれることが多い



日本では、各市町にあるリサイクル拠点を活用して、リユースへの誘導ができないか。

寄付を促進する制度（ギフトエイド）

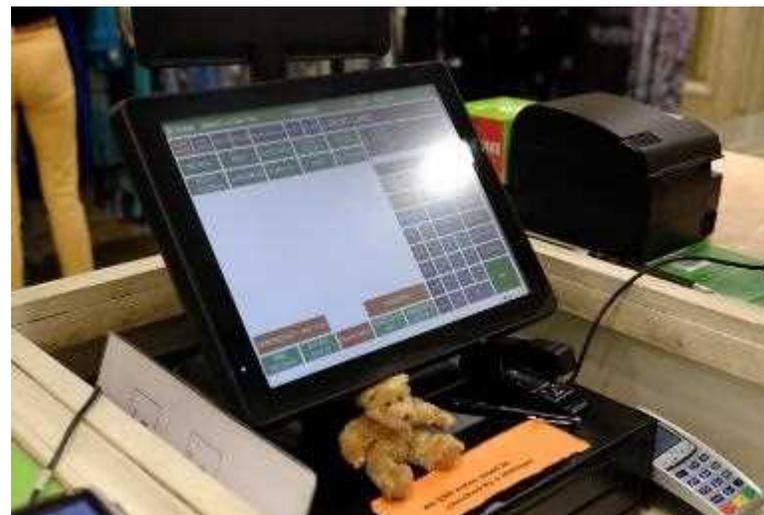
①寄付者登録



②寄付品にバーコード貼付



③レジで還付請求情報が整理



寄付品の売上金額の25%が政府からCS運営団体に支払われる仕組み（正確には、政府から寄付者に還付され、受け取らない場合、CS運営団体に支払われる）

CSの社会的価値

- リユース・リサイクル活動の拠点（寄付・買い物・啓発）
- 非営利団体のファンドレイジング・広報の場
- 地域コミュニティの強化・多様な人との出会いや交流の場
- 生きがい・やりがいの創出
- 地域経済への貢献・雇用創出
- 貧困者に対する経済的支援
- 災害時の支援拠点にもなり得る